

令和2年度 第1回天王寺区教育会議（会議要旨）

日 時：令和2年9月24日（木）19時30分～20時30分

場 所：天王寺区役所 講堂

出席者：〔学校協議会（五十音順）〕

一宮委員（天王寺中）、香川委員（夕陽丘中）、原委員（高津中）、荒木委員（大江小）、井澤委員（五条小）、鈴木委員（生魂小）、真野委員（桃陽小）、永井委員（味原小）、竹内委員（真田山小）

〔区政会議子育て・教育班（五十音順）〕

植田委員、頓名委員、中谷委員、三宅委員、山本委員

〔学校〕三木校長（大江小）、中務校長（夕陽丘中）

〔区役所〕加藤区担当教育次長、吉村区教育担当部長、糸井区教育担当課長、
岩上区教育担当課長、渡邊区教育担当課長代理

傍聴者・報道関係者：なし

○今年度の教育に関する取組について、糸井課長より説明

○委員意見及び回答

➤学校図書館の活用について

・図書館補助員の仕事はどのようなことをしているのか。

→学校図書館の開館や貸出業務、子どもたちが本に親しむための読み聞かせなどの環境整備の補助を行っている。

➤学校におけるオンラインでの学習やイベント等の取組について

・新型コロナウイルス感染症の影響により、学校が休校となりイベントも中止になっており、学校においてオンラインで取り組んでいることやオンラインで取り組むにあたって難しいことはあるか。

→オンライン授業については未実施。先日、Teamsを活用して学校と家庭をつなぐ双方向通信を行ったところである。次の段階として小学校では6年生にTeamsでの授業を行う予定。学校にあるタブレットを持ち帰り使用してもらい、通信環境が整っていない家庭に対しモバイルルータを貸与するなど、今年度末までに環境整備を行う予定。

イベントについては、オンラインでは動画を流したままになり、子どもたちが体験することができないことが多いが、現在では「できることはやる」という考えで、運動会や修学旅行なども実施し、感染症対策をしっかりと行いながら取り組んでいる。

・新型コロナウイルス感染症で学校へ行きたくない子どもはいるのか。

→学校再開直後の時期にはそのような児童はいたが、Teamsを活用した授業を先行して実施した。現在も他校ではそのような児童もいると聞いている。今後もそのような児童がいれば、オンラインでの授業配信により対応していく。

➤スクールカウンセラー事業について

・事業の効果はどのように見ていくのか。また、予算の増額理由を教えてください。

→事業の効果については、解決改善件数で見ているが、内容によってはすぐに解決改善が図られない相談もあるので、相談の機会を設けることが大事と考える。

（〔参考〕全市事業効果（目標）：年間相談回数が年間相談可能回数の約80%かつ、小中学校の管理職が解決・改善に向かったと評価した事案の割合が相談件数の45%）

予算については、相談件数及び解決改善に時間を要する相談が増加しており、特に、小学校での相談が増えたことから、小学校への派遣を充実させたことによる。

➤民間事業者を活用した中学生学習支援事業について

- ・全体の定員 70 人に対して実際参加しているのは 19 人と少ないがどういう理由か。また、本事業を区独自で行っている必要性を教えてください。

→天王寺区には多くの学習塾があり通っている生徒も多く、他の塾に行っているので 70 人の定員に対して参加人数が少ないと考えている。しかしながら、「塾代助成カード」があれば家庭の負担なく通塾できることから、家庭の経済格差に起因する学力格差を解消するための手段の一つであり、子どもたちの学びの 1 つの選択肢として考えている。併せて、家庭での学習が難しい子どもに学習習慣をつけさせるために必要と考えている。

- ・必要性について家庭学習の習慣づけという説明があったが、「大阪市塾代助成事業」の目的は、塾に通えない子どもを高等教育へ結びつけることが重要な目的である。事業の参加者が高校に進学してドロップアウトしていないかなど評価になると思う。

→事業の参加者は高校進学をめざして学習に取り組んでいる。

- ・せっかく良い企画をしているので、授業をやりっぱなしにしないで、もっと進化させてほしい。そうすれば、もっと勉強したい子どもが集まってくると思う。実施事業者のトライにも協力してもらい、進化する事業に期待したい。